

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 23 年 8 月

テーマ 県民交流広場事業による「赤松円心の郷」の地域づくり

寄稿者 赤穂郡上郡町 赤松校区むらづくり推進委員会 会長 山本 忠孝

赤松校区の概要

上郡町は兵庫県の南西部に位置し、中央を清流・千種川が南北に流れる山あいの町です。赤松校区は、千種川とその支流の岩木川が合流するVの地2つの谷に分かれた地形で、岩木・大枝・赤松の3地域に15集落、約650世帯、約1,750人が住んでいます。

かつてはそれぞれの地域に小学校があり、個性的な地理・歴史的背景を有し、濃密なコミュニティを形成していましたが、昭和40年には統合で1校となり、さらに近年の少子高齢化により来年4月には隣接の小学校へ統廃合を控え、赤松校区内に小学校がなくなるという状況にあります。

平成20年度より県民交流広場事業に取り組むにあたり、地域では町と担当者とともに地域の資源と課題を出し合い、テーマを「出会い・ふれあい いきいき赤松の郷」とし、「自然と歴史を生かし、参画と協働による共生の郷づくり」に取り組もうということになりました。特に、町立公民館を中心とした世代間交流は、高齢者が子どもたちと触れ合い生きがいを感じる貴重な機会として充実を図りたいと考えました。

地域資源の活用

赤松校区は名前のおり鎌倉・室町時代の播磨の武将「赤松円心」ゆかりの郷として、千種川沿線に赤松氏の菩提寺や居城跡、資料館など歴史的に貴重な資源が存在しており、地域では毎年11月23日に「白旗城まつり」を盛大に開催し、町内外からの観光客の方々をおもてなししています。

県民交流広場事業における拠点整備の計画段階で浮上しましたのが、岩木川上流の集落（岩木丙石戸）にある幕末から明治時代に活躍した高級官僚「大鳥圭介」の生誕地整備でした。偶然にも大鳥圭介没後100年が平成23年であることから、老朽化した生家の改築とともに今一度「大鳥圭介」を地域の誇りとして顕彰していこうということになり、「大鳥圭介公生誕地保存会」を組織するとともに県民交流広場事業の整備費に、公募した寄付金を加え、生誕地に新たに「いきいき交流ふるさと館」を整備しました。

上郡町においても大鳥圭介にスポットがあてられ、フォーラム、講演会、企画展示のほか、同時期にケーブルテレビ事業が始まり、コミュニティチャンネルの番組制作なかで大鳥圭介の生涯を紹介するアニメ「けいすけじゃ」がボランティアで制作され、地元住民もアフレコで

参加するなど顕彰ムードが盛り上がりました。また、幕末ブームにより、全国から大鳥圭介の生誕地を訪ねて来客があるようになりました。

出会い・ふれあい

現在、高齢者世帯の孤立化や子どもの減少により子育てに不安を感じている保護者も多いため、この課題解消のために、地区全体での交流事業の展開が効果的であると考え、当校区にある歴史遺産や豊かな自然を活用した取り組みを行いました。

具体的には、白旗城まつりの開催に加え、圭介まつりの開催、地元産のそばやコンニャクづくりなどの料理教室の実施、ホテル及び水生生物の観賞会や、高齢者と子どもで行う竹細工教室などです。

いきいき交流ふるさと館では、「ふれあい喫茶」を第1、第3日曜日に開館し、圭介塾という勉強会を開催しています。また、地元の梅園で採れた梅干しや地元企業の昆布茶なども販売しています。子どもたちも小学校の交流授業として大鳥圭介のことを学びに当館を訪れるようになりました。

町外の各種団体との出会いもあり、大鳥圭介が儒学を学んだ岡山県備前市の閑谷学校の歴史ツアーを受け入れたり、圭介塾の出張講座として西播磨文化会館の講座に塾長が招かれたりしています。また、赤松円心の関係では白旗城まつりに向けて、備前市片上地区と「戦国武将よろいカブト交流事業」を行い、島根県安来市から指導者を招いて本格的な手作りのよろいカブトを制作しました。

今後の取り組み

魅力ある地域づくりと地域内外への情報発信により、今後さらなる交流により「出会い・ふれあい」を推進していき、息の長い県民交流広場事業にしていくとともに、地域の活性化を目指します。